

三菱UFJ 日本株オープン「35」

追加型投信／国内／株式

モーニングスター アワード「ファンドオブザイヤー 2021」
国内株式型 部門『優秀ファンド賞』受賞



「三菱UFJ 日本株オープン「35」」が、
モーニングスター株式会社の
「Morningstar Award “Fund of the Year 2021”」
国内株式型 部門におきまして
優秀ファンド賞を受賞いたしました。

Morningstar Award “Fund of the Year 2021”について

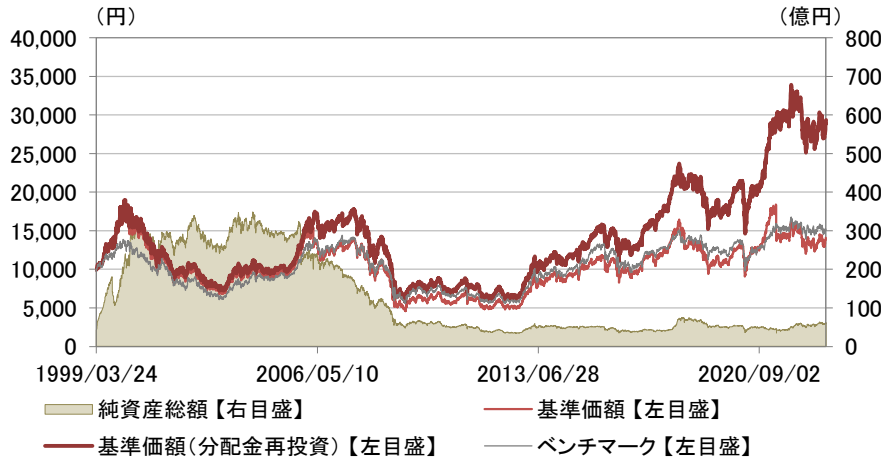
Morningstar Award “Fund of the Year 2021”は過去の情報に基づくものであり、将来のパフォーマンスを保証するものではありません。また、モーニングスターが信頼できると判断したデータにより評価しましたが、その正確性、完全性等について保証するものではありません。著作権等の知的所有権その他一切の権利はモーニングスター株式会社並びにMorningstar, Inc. に帰属し、許可なく複製、転載、引用することを禁じます。

当賞は国内追加型株式投資信託を選考対象として独自の定量分析、定性分析に基づき、2021年において各部門別に総合的に優秀であるとモーニングスターが判断したものです。国内株式型 部門は、2021年12月末において当該部門に属するファンド897本の中から選考されました。

投資対象については、後記の「ファンドの目的・特色」をご覧ください。

後記の「本資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

■ 基準価額および純資産総額の推移



- ・基準価額、基準価額(分配金再投資)は、運用管理費用(信託報酬)控除後の値です。
- ・信託報酬率は、後記の「ファンドの費用」に記載しています。
- ・基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。
- ・ベンチマークは、東証株価指数(TOPIX)です。
- ・詳しくは、後記の「本資料で使用している指数について」をご覧ください。
- ・ベンチマークは、設定日前営業日を10,000として指数化しています。

■ 騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
ファンド	9.1%	4.2%	5.0%	-7.8%	47.6%	193.7%
ベンチマーク	5.1%	-0.6%	1.6%	-3.6%	15.7%	52.7%

- ・実際のファンドでは、課税条件によってお客さまごとの騰落率は異なります。
- ・また、換金時の費用・税金等は考慮していません。
- ・設定来のファンドの騰落率は、10,000を起点として計算しています。
- ・分配金実績がある場合は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

■ 組入上位10業種

業種	比率
1 電気機器	23.3%
2 化学	14.8%
3 情報・通信業	13.3%
4 医薬品	11.4%
5 サービス業	10.5%
6 輸送用機器	6.1%
7 保険業	4.1%
8 ガラス・土石製品	3.7%
9 銀行業	3.4%
10 精密機器	3.1%

■ 組入上位10銘柄

銘柄	業種	比率
1 トレンダーズ	サービス業	6.5%
2 そーせいグループ	医薬品	6.5%
3 第一三共	医薬品	4.9%
4 昭和電工	化学	4.4%
5 Sansan	情報・通信業	4.3%
6 マネーフォワード	情報・通信業	3.5%
7 三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	3.4%
8 イビデン	電気機器	3.2%
9 朝日インテック	精密機器	3.1%
10 山一電機	電気機器	3.0%

組入銘柄数: 42銘柄

■ 基準価額および純資産総額

基準価額(1万口当たり)	14,090円
前月末比	+1,173円
純資産総額	61.70億円

■ 分配金実績(1万口当たり、税引前)

決算期	決算日	分配金
第23期	2022/03/23	0円
第22期	2021/03/23	4,000円
第21期	2020/03/23	0円
第20期	2019/03/25	0円
第19期	2018/03/23	1,500円
第18期	2017/03/23	900円
設定来累計		10,500円

- ・運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

■ 資産構成

	比率
実質国内株式	98.8%
内 現物	98.8%
内 先物	0.0%
コールローン他	1.2%

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入しています。・原則として、比率は純資産総額に対する割合です。・コールローン他は未収・未払項目が含まれるため、マイナスとなる場合があります。・業種は、東証33業種で分類しています。

※後記の「本資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

■組入全銘柄

組入銘柄数：42銘柄

銘柄	市場	業種	比率	銘柄	市場	業種	比率
1 トレンダーズ	東証グロース	サービス業	6.5%	41 日本ペイントホールディングス	東証プライム	化学	0.7%
2 そーせいグループ	東証グロース	医薬品	6.5%	42 東海カーボン	東証プライム	ガラス・土石製品	0.6%
3 第一三共	東証プライム	医薬品	4.9%				
4 昭和電工	東証プライム	化学	4.4%				
5 Sansan	東証プライム	情報・通信業	4.3%				
6 マネーフォワード	東証プライム	情報・通信業	3.5%				
7 三菱UFJフィナンシャル・グループ	東証プライム	銀行業	3.4%				
8 イビデン	東証プライム	電気機器	3.2%				
9 朝日インテック	東証プライム	精密機器	3.1%				
10 山一電機	東証プライム	電気機器	3.0%				
11 デクセリアルズ	東証プライム	化学	2.9%				
12 富士電機	東証プライム	電気機器	2.8%				
13 トヨタ自動車	東証プライム	輸送用機器	2.7%				
14 東京海上ホールディングス	東証プライム	保険業	2.7%				
15 三井物産	東証プライム	卸売業	2.4%				
16 スミダコーポレーション	東証プライム	電気機器	2.3%				
17 東京エレクトロン	東証プライム	電気機器	2.2%				
18 トリケミカル研究所	東証プライム	化学	2.2%				
19 ソニーグループ	東証プライム	電気機器	2.2%				
20 ルネサスエレクトロニクス	東証プライム	電気機器	2.1%				
21 セプテーニ・ホールディングス	東証スタンダード	サービス業	2.0%				
22 ベイカレント・コンサルティング	東証プライム	サービス業	1.9%				
23 GMOペイメントゲートウェイ	東証プライム	情報・通信業	1.9%				
24 ファーストリテイリング	東証プライム	小売業	1.9%				
25 ソフトバンクグループ	東証プライム	情報・通信業	1.8%				
26 コナミグループ	東証プライム	情報・通信業	1.8%				
27 スズキ	東証プライム	輸送用機器	1.8%				
28 デンソー	東証プライム	輸送用機器	1.6%				
29 日東紡績	東証プライム	ガラス・土石製品	1.6%				
30 日立製作所	東証プライム	電気機器	1.6%				
31 第一生命ホールディングス	東証プライム	保険業	1.5%				
32 メイコー	東証プライム	電気機器	1.5%				
33 三菱瓦斯化学	東証プライム	化学	1.5%				
34 MARUWA	東証プライム	ガラス・土石製品	1.4%				
35 日本電産	東証プライム	電気機器	1.4%				
36 JSR	東証プライム	化学	1.2%				
37 資生堂	東証プライム	化学	1.2%				
38 キーエンス	東証プライム	電気機器	1.0%				
39 ダイキン工業	東証プライム	機械	0.8%				
40 ユニ・チャーム	東証プライム	化学	0.7%				

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入しています。・原則として、比率は純資産総額に対する割合です。・業種は、東証33業種で分類しています。

■本資料で使用している指数について

・東証株価指数(TOPIX)とは、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出される株価指数です。TOPIXの指数値及びTOPIXに係る標章又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利・ノウハウ及びTOPIXに係る標章又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。

コード	銘柄	銘柄概要
3769	GMOペイメント ゲートウェイ	主に電子商取引(EC)事業者に向けたクレジットカードの決済処理サービスを展開し、多様な決済手段の追加と、付加価値サービスの提供及び事業領域の拡大により、継続的な高成長を実現。加えて、時機を捉え、新たな金融関連サービスも本格展開へ。
3994	マネーフォワード	法人向けにバックオフィス向けの業務効率化ソリューションである「マネーフォワード クラウド」、個人向けには家計や資産を可視化して一元管理を可能にし改善策を提案する「マネーフォワード ME」などのサービスを提供。中堅企業への顧客獲得が進展することで更なる業績貢献に期待。
4004	昭和電工	「コア成長事業」「次世代事業」「安定収益事業」「基盤事業」の4つの事業群をポートフォリオとして設定。今後の成長を牽引するコア成長事業を「エレクトロニクス」と「モビリティ」、将来のコア成長事業に育成を図る次世代事業として「ライフサイエンス」を定め、中長期的な事業拡大をめざす。
4062	イビデン	電子事業はICパッケージ基板やプリント配線基板など、最先端の技術で世界のエレクトロニクス分野をリード。セラミック事業ではディーゼル車黒煙除去フィルター(SiC-DPF)や特殊炭素製品(グラファイト)など長年培ってきたコア技術を進化させ、セラミックの新たな可能性を開拓。
4182	三菱瓦斯化学	サウジアラビアなどでメタノールの合弁事業を行うなど、エネルギーを含む基礎化学品からファインケミカル、機能材料に至る幅広い領域に事業を展開。同社が手掛ける特殊ポリカーボネートは、スマートフォンのカメラレンズ向けなどに需要拡大が期待。
4185	JSR	祖業のエラストマー事業を分社化し、ENEOSに株式譲渡するなどの構造改革を実行。イノベーションとの親和性が高い半導体材料事業を中心としたデジタルソリューション事業、ライフサイエンス事業にリソースを投入し、独自性のある価値創出を進める。
4369	トリケミカル研究所	半導体の微細化・高性能化の進展につれ、従来の製法・材料では解決できない電気的な問題を解決するための誘電率の低い膜が得られる低誘電率層間絶縁膜(Low-k)材料などをはじめ、新たなニーズに対応する材料をいち早く提案し、安定供給するのが当社の特徴。
4443	Sansan	名刺管理サービスでは国内トップクラスのシェアを誇り、今後も国内での普及拡大で成長が見込まれる。また、様々な形式の請求書をオンライン上で受領可能にするサービスである「Bill One」も契約企業数が増加傾向にあり、今後の業績貢献に期待。
4565	そーせいグループ	アンメットメディカル(いまだ有効な治療方法が確立されていない疾病)のニーズが高い領域での新規治療薬候補の探索、初期開発に重点的に取り組む国際的なバイオ医薬品企業。武田薬品工業やファイザーなどの大手グローバル製薬企業、ならびに複数の新興バイオ医薬品企業と提携。
4568	第一三共	これまでの高血圧などの循環器領域を中心とした事業から、がんを中心に専門医が処方するスペシャリティ領域で、現在の医学では最善とされ広く用いられている治療法を変革する先進的な製品・パイプラインを持つグローバル企業への転換をめざす。
4911	資生堂	企業使命である「美しい生活文化の創造」の実現に向けて、「世界で勝てる日本発のグローバルビューティーカンパニー」をめざす。世界各地のニーズに対応したブランド戦略の徹底やデジタルライゼーションの強化に加えて、新領域の開発による新たな価値創造などをめざす。
4980	デクセリアルズ	スマートフォンやノートPCをはじめとするエレクトロニクス機器や電装化が進む自動車に欠かせない電子部品、接合材料、光学材料など機能性材料の開発・製造・販売を手掛ける。自動車事業をはじめ新規領域における製品の拡販に努めるなど、事業ポートフォリオの見直しを継続的に推進。
5301	東海カーボン	主力の黒鉛電極事業では日・米・ドイツの3極における最適生産体制確立。「成長事業」として位置付けている精錬ライニング、ファインカーボン、工業炉及び関連製品においては、新規開発品を含めた積極的拡充を行い、電気自動車、5G通信網、ITなどによる市場成長の獲得を狙う。

・上記は個別の銘柄の取引を推奨するものではありません。各社ホームページ、その他三菱UFJ国際投信が信頼できると判断した情報に基づき、作成しています。

※後記の「本資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

	コード	銘柄	銘柄概要
新規	6367	ダイキン工業	創業以来、空調事業、フッ素化学事業を主力に成長を続け、世界で唯一、空調と冷媒の両方を手掛ける総合空調メーカー。ヒートポンプ式暖房・給湯機、インバータなど省エネ機器のさらなる販売拡大に注力することでエネルギー消費量を低減し、温室効果ガス排出量の削減に貢献へ。
	6501	日立製作所	大手総合電機メーカー。IT、エネルギー、モビリティなど広範に事業を手掛ける。社会的なデジタルトランスフォーメーション需要の高まりによるデジタルサービスを基軸とした事業領域の成長や、脱炭素化に向けたソリューションの提供などによる業績拡大に期待。
	6504	富士電機	低炭素社会の実現に向け、クリーンエネルギー、エネルギーの安定供給、省エネのニーズが一層高まるなか、同社の得意とするパワー半導体技術やパワーエレクトロニクス技術を生かしたビジネスチャンスの広がりが期待される。
	6532	ベйкаレント・コンサルティング	幅広い業種の企業や政府などをクライアントに持ち、戦略から業務・ITに至るまで豊富なサービスを提供する総合コンサルティングファーム。デジタル関連のコンサルティング市場は今後拡大が予想され、顧客基盤と豊富な知見を強みに案件を獲得していくことで、更なる業績拡大に期待。
	6594	日本電産	精密小型モータ、車載用モータなど世界的に高い競争力を持つ製品を有する電子部品企業。収益構造改革を断行するなど、収益性改善には意欲的。積極的な企業買収戦略も含め、マネジメント力には定評がある。
	6723	ルネサスエレクトロニクス	マイコン、アナログ半導体、パワー半導体などで世界のリーディングカンパニーの一角。自動車、産業、インフラ、IoTなど4つの注力市場における何十億ものコネクテッドデバイスに、革新的な組み込みシステムのトータルソリューションを提供。
	6758	ソニーグループ	イメージセンサー、ゲーム、映画・音楽分野などに強み。イメージセンサーについては、業界屈指の技術力を背景に、高い市場競争力を持つ事業として順調に拡大。エンタテインメントにおいては、音楽、映画、ゲームでシナジーを生み出す体制を整備。
	6861	キーエンス	自動制御機器、計測機器、情報機器およびその他電子応用機器ならびにこれらのシステムの開発、製造および販売を行っている。製造業の合理化、省力化、品質向上、研究開発の強化などをビジネスチャンスと捉え、事業の拡大を図っている。海外展開にも積極的。
	6902	デンソー	ハイブリッド車に欠かせない主要製品の高性能化や小型化、省燃費化を実現。幅広い事業領域を活かし、車内のあらゆるシステムや製品をつなぎ、エネルギーを効率よくマネジメントすることにより、さらなる燃費性能向上や省電力化に貢献していくことが期待される。
	6941	山一電機	スマートフォンやサーバーなどの高機能化と大容量化を背景とした情報通信関連向けに加えて、自動車関連向け半導体投資が拡大傾向にあり、これらメモリ系やロジック系およびパワー系半導体向け検査用バーンインソケット製品およびテストソケット製品への需要拡大に期待。
	7203	トヨタ自動車	世界トップレベルの自動車メーカー。軽自動車・トラック部門を傘下に置きトヨタ自動車グループを形成。財務体質強い。顧客ニーズに合った魅力ある商品投入と原価改善に注力。環境・安全面で卓越した技術力（ハイブリッドカーではプリウスで先行）を持つ。
	7269	スズキ	国内軽自動車市場やインドの乗用車市場で高いシェアを有する。国内市場では直販力を強化し、登録車拡販をめざす。インド市場では強みの源泉である新車販売網、サービス網をさらに強化するとともに、環境問題に対し社会から求められる電動化を率先して推進。
	7747	朝日インテック	狭心症や心筋梗塞などを治療する際に使う細い管（カテーテル）を安全・確実に血管まで通すために使われる経皮的冠動脈形成術（PTCA）ガイドワイヤーが主力製品で、同製品では国内トップシェア、世界でも上位を争う。素材からの一貫生産に強み。
	8031	三井物産	各事業本部が持つ強い「商品軸」に、世界各地で活躍する現地人材を柱とする「地域軸」と、総合商社としてのさまざまな「機能軸」を掛け合わせ、長い歴史の中で築き上げてきた顧客やパートナーとのネットワークを駆使し、今後も新たなビジネスモデルや新事業を創出することに期待。

・上記は個別の銘柄の取引を推奨するものではありません。各社ホームページ、その他三菱UFJ国際投信が信頼できると判断した情報に基づき、作成しています。

コード	銘柄	銘柄概要
8035	東京エレクトロン	家電、自動車、医療、ヘルスケアなど、あらゆる分野に半導体の用途が拡大することが見込まれ、半導体製造装置においても、先端技術と旧世代技術の両端における半導体用途の拡がりにより新たな事業機会が創出されることで、拡大基調を辿ることが予想される。
8113	ユニ・チャーム	建築資材の製造・販売で創業した後、生理用ナプキン市場に参入して以来、不織布を巧みに加工した画期的な商品を次々と発売し、業界のパイオニアとして市場をリード。アジアでの強固な経営基盤を背景に、アフリカや南米など成長期にある市場に積極的に参入し、さらなる事業拡大を推進。
8306	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行・信託・証券を融合した新しい価値を志向する金融グループ。「世界に選ばれる、信頼のグローバル金融グループ」を中長期的にめざす姿としている。継続的な株主還元策の積極化が期待される。
8750	第一生命ホールディングス	旧損保ジャパン・ディー・アイ・ワイ生命保険や米国のプロテクトティブ社を完全子会社化する等、積極的に合併・買収(M&A)を展開。3つの成長エンジン(国内生命保険事業、海外生命保険事業、資産運用・アセットマネジメント事業)を強化することで、さらなる成長をめざす。
8766	東京海上ホールディングス	国内の損害保険事業・生命保険事業を通じて安定した収益を持続的に創出するとともに、海外では市況に左右されない先進国のスペシャルティ保険の利益や新興国での高い成長を取り込み、グローバルに分散の効いた事業ポートフォリオを実現。
9766	コナミグループ	家庭用ゲームソフト、アミューズメント機器、カードゲームなど幅広い事業領域を持つ総合エンターテインメント企業。eスポーツプラットフォーム「eFootball」の事業展開や、カードゲーム「遊戯王」に関連したゲームタイトルなど、有力コンテンツのグローバル展開の加速などによる業績貢献に期待。
9983	ファーストリテイリング	カジュアル衣料品店「ユニクロ」を世界展開。自社で企画した製品を中国・ベトナム・バングラデシュなどで生産することにより「高品質・低価格」を実現。素材メーカーと連携した製品開発力にも定評。先行するアジアとともに、米国での出店拡大も海外ユニクロ事業の成長ドライバーとして注目。
9984	ソフトバンクグループ	「情報革命で人々を幸せに」を経営理念とし、インターネットカンパニーとしてさまざまな事業展開を行っている。特定のテクノロジー・特定のビジネスモデルにこだわらず、その時代、時代で世界で最も優れた企業とパートナーシップを組むことで長期的な成長を狙っている。

削除	6981 村田製作所	スマートフォンやノートパソコンなど最終需要の不透明感を考慮し、削除。
----	------------	------------------------------------

・上記は個別の銘柄の取引を推奨するものではありません。各社ホームページ、その他三菱UFJ国際投信が信頼できると判断した情報に基づき、作成しています。

※後記の「本資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

三菱UFJ 日本株オープン「35」

追加型投信／国内／株式

ファンドの目的・特色

■ファンドの目的

わが国の株式を実質的な主要投資対象とし、「企業の成長性」に着目して厳選した「35銘柄」に主に投資を行い、東証株価指数(TOPIX)を上回る投資成果をめざします。

■ファンドの特色

特色1 わが国の株式を主要投資対象とします。

特色2 「企業の成長性」に着目して厳選した「35銘柄」に主に投資します。

・「35銘柄」に絞り込んで投資することで、全産業に投資するよりも高いパフォーマンスをめざします。また、より綿密な情報分析と継続フォローの徹底を図ります。

特色3 銘柄選定は、個別企業訪問等を通じ分析するボトム・アップ・アプローチにより行います。

特色4 東証株価指数(TOPIX)をベンチマークとし、これを上回る投資成果をめざします。

■ファンドの仕組み

・運用は主に日本株オープン「35」マザーファンドへの投資を通じて、わが国の株式へ実質的に投資するファミリーファンド方式により行います。

■分配方針

- ・年1回の決算時(3月23日(休業日の場合は翌営業日))に分配を行います。
- ・分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。
- ・分配対象収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

投資リスク

■基準価額の変動要因

ファンドの基準価額は、組み入れている有価証券等の価格変動による影響を受けますが、これらの運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。

したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

投資信託は預貯金と異なります。

ファンドの基準価額の変動要因として、主に以下のリスクがあります。

価格変動リスク	一般に、株式の価格は個々の企業の活動や業績、市場・経済の状況等を反映して変動するため、ファンドはその影響を受け組入株式の価格の下落は基準価額の下落要因となります。
信用リスク	組入有価証券等の発行者や取引先等の経営・財務状況が悪化した場合またはそれが予想された場合もしくはこれらに関する外部評価の悪化があった場合等には、当該組入有価証券等の価格が下落することやその価値がなくなること、または利払い・償還金の支払いが滞ることがあります。
流動性リスク	有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性の下での取引を行えない場合または取引が不可能となる場合、市場実勢から期待される価格より不利な価格での取引となる可能性があります。

■その他の留意点

- ・ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリングオフ)の適用はありません。
- ・ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受付が中止となる可能性、換金代金のお支払が遅延する可能性があります。
- ・収益分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益の水準を示すものではありません。収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。

投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり率が小さかった場合も同様です。

収益分配金の支払いは、信託財産から行われます。したがって純資産総額の減少、基準価額の下落要因となります。

- ・ファンドは、ファミリーファンド方式により運用を行います。そのため、ファンドが投資対象とするマザーファンドを共有する他のペビーファンドの追加設定・解約によってマザーファンドに売買が生じた場合などには、ファンドの基準価額に影響する場合があります。

ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

三菱UFJ 日本株オープン「35」

追加型投信／国内／株式

手続・手数料等

■お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位／販売会社にご確認ください。
購入価額	購入申込受付日の基準価額 ※基準価額は1万口当たりで表示されます。基準価額は委託会社の照会先でご確認ください。
換金単位	販売会社が定める単位(ただし、1万口を上回らないものとします。)／販売会社にご確認ください。
換金価額	換金申込受付日の基準価額
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して4営業日目から販売会社においてお支払いします。
申込締切時間	原則として、午後3時までに販売会社が受付けたものを当日の申込分とします。
換金制限	ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口の換金のお申込みに制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止及び取消し	金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、およびすでに受付けた購入・換金のお申込みの受付を取消すことがあります。
信託期間	2024年3月22日まで(1999年3月24日設定)
繰上償還	受益権の口数が10億口を下回ることとなった場合等には、信託期間を繰上げて償還となることがあります。
決算日	毎年3月23日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	年1回の決算時に分配を行います。 販売会社との契約によっては、収益分配金の再投資が可能です。
課税関係	課税上は、株式投資信託として取扱われます。個人受益者については、収益分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の譲渡益に対して課税されます。NISA(少額投資非課税制度)およびジュニアNISA(未成年者少額投資非課税制度)の適用対象です。税法が改正された場合等には、変更となることがあります。くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

■ファンドの費用

お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料 購入価額に対して、**上限2.2%(税抜 2%)**(販売会社が定めます)
(購入される販売会社により異なります。くわしくは、販売会社にご確認ください。)

信託財産留保額 ありません。

お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用(信託報酬) 日々の純資産総額に対して、**年率1.65%(税抜 年率1.5%)**をかけた額

その他の費用・手数料 監査法人に支払われるファンドの監査費用・有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料・有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用・その他信託事務の処理にかかる諸費用等についてもファンドが負担します。
※上記の費用・手数料については、売買条件等により異なるため、あらかじめ金額または上限額等を記載することはできません。

※運用管理費用(信託報酬)および監査費用は、日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。毎計算期間の6ヵ月終了時、毎決算時または償還時にファンドから支払われます。

※上記の費用(手数料等)については、保有金額または保有期間等により異なるため、あらかじめ合計額等を記載することはできません。なお、ファンドが負担する費用(手数料等)の支払い実績は、交付運用報告書に開示されていますのでご参照ください。

本資料のご利用にあたっての注意事項等

●本資料は、三菱UFJ国際投信が作成した資料です。投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。●本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。●本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。●本資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。銀行等の登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の補償の対象ではありません。●投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。

●委託会社(ファンドの運用の指図等)

三菱UFJ国際投信株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号

加入協会: 一般社団法人 投資信託協会

一般社団法人 日本投資顧問業協会

<ホームページアドレス> <https://www.am.mufig.jp/>

<お客さま専用フリーダイヤル> 0120-151034

(受付時間 営業日の9:00~17:00)

●受託会社(ファンドの財産の保管・管理等)

三菱UFJ信託銀行株式会社

ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

販売会社情報一覧表

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は下記の販売会社まで

ファンド名称:三菱UFJ 日本株オープン「35」

商号	登録番号等	日本証券業協会	一般社団法人 日本 投資顧問業 協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種 金融商品 取引業協会
アイザワ証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第3283号	○	○		
いちよし証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第24号	○	○		
auカブコム証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第61号	○	○	○	○
株式会社SBI証券	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
株式会社新生銀行(委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券)	登録金融機関 関東財務局長(登金)第10号	○		○	
東海東京証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長(金商)第140号	○		○	○
株式会社三菱UFJ銀行(※)	登録金融機関 関東財務局長(登金)第5号	○		○	○
三菱UFJ信託銀行株式会社	登録金融機関 関東財務局長(登金)第33号	○	○	○	
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2336号	○	○	○	○
楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○